

緑生瓦版

2006.07.01
第 参 号

業種が地味なのか…?

先日、女子中高生を対象に理系業種を紹介するイベントで生物系業種のブースを出しました。実験の実演を行い大盛況の科学系業種ブースに比べ、植物標本や資料を使って説明するだけだった当ブースは地味で人影もまばら。工夫不足も考えられますが、原因はもしかして…。

調査部
能勢 かわり

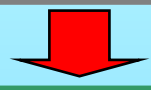
緑生研究所って、どんな会社…?
～GISの巻 応用編～
緑地のほとんどない市街地内における
エコロジカル・ネットワークの解析・
評価の事例

今回は、具体的な対象種を想定し、対象種の生態を踏まえた環境情報の解析により、潜在的な生息地（環境条件から生息していると判断される場所）の抽出とその連続性の評価を行った事例を紹介します。（計画部 伊藤休一）



シジュウカラ

【地域特性を考慮した目標種の設定】
(シジュウカラ)

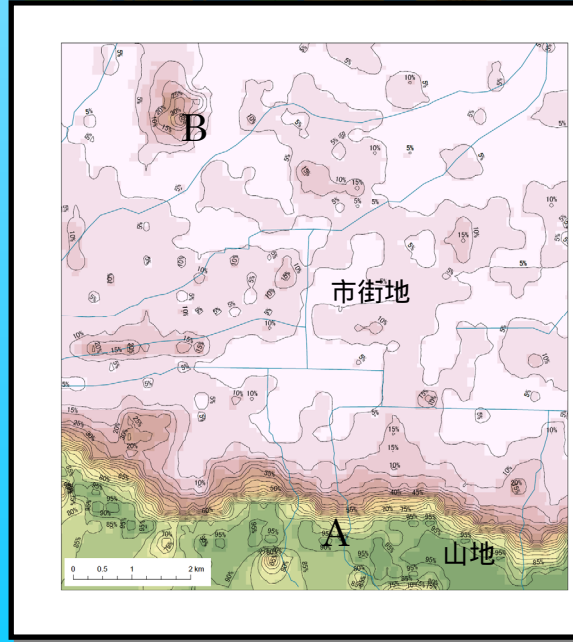


【既往の知見の調査】



【既往の知見に基づく解析方法の設定】

- ・一定間隔に配置した半径 200m の円内における樹林面積率を算出。
- ・樹林面積率の違いをグラデーション表示。
- ・同じ樹林面積率の範囲を、10%ごとの等値線として表示。



【評価結果】

- ・ A 山地から低地の市街地にかけて、等値線の間隔が密になっており、200m 範囲内での樹林率が急激に減少している様子がよみとれる。
- ・ 市街地内では、B 地点付近の緑地（都市公園）において最も高い値である緑被率 35%が示され、対象種が安定的に生息しうる可能性があると考えられるが、同程度の緑被率をもつエリアが連続しておらず、安定的な生息地のネットワークは現況において形成されていないと考えられる。
- ・ 市街地内において、緑被率 10%のエリアが島状に点在する分布傾向を示しており、10%を下回るエリアが比較的連続している。対象種の生息には厳しい状況が数値的にうかがえる結果となった。



写真だより



アジサイ Hydrangea

梅雨時の花として親しまれ、庭先などでよく目にしますが、薬草としても使われることがあります。日干しした花を、2～4g煎じて服用すると、解熱効果があるそうです。

アブラゼミ Graptosaltria

名前の由来にはふたつの説があります。油でぬれたような翅をしているから、鳴き声が揚げものをするときの音に似ているから、皆さんはどちらだと思えますか...?



アンケートのお願い!

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、**緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334)** をお願いいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。第四号は、秋といってもまだまだ暑い、九月一日の発行を予定しています。特集では『特殊な調査』として、コウモリ類調査を取り上げます。お楽しみに！

お楽しみに！

先日、ホタルを見にきました。今年はお天気がいいので、木の枝先で一頭だけ光っていました。しばらく待っているとあちこちで光り、二十頭くらいみることができました。そこは毎年行っているのですが、だんだん住宅が増え湿地も狭くなり、環境がずいぶんと変わりました。来年もまたホタルにあえることを期待しています。ご心配です。

